



旧小田小学校の周辺にあるサクラの木の枝を伐採する小田地区の住民ら

小田部落会の環境整備 大雪で折れた枝を伐採

クリーン葛巻行動の日の4月10日、小田部落会（門場政一会長・114世帯）では、道路沿いのごみ拾いや樹木の伐採作業を行いました。

約60名の参加者は、旧小田小学校、旧小田保育園、真山神社の周辺にある年末年始の大雪によって折れたサクラやスギの木の枝を、のこぎりなどを使い伐採しました。

同会では、5月から10月の毎月第2日曜日を地域の環境整備をする日とし、昭和47年から活動を続けています。門場会長は「作業をして見通しが良くなり、とっても明るくなりました」と笑顔を見せていました。



研修生を代表して決意を述べる小野優市さん

山地酪農研修センター 第32期生の5人が入所

平成23年度山地酪農研修センターの入所式は4月4日、プラトールで行われ第32期生となる研修生5人が新たなスタートを切りました。

鈴木重男町長は「現場での研修をしながら、自分が将来に向けてどんな方向に進むか、夢を大きく想い描く期間にして欲しい」と激励。研修生を代表して、今年度新たに入所した小野優市さん（26歳・岩手町出身）は、「食料生産に対する広い視野と識見を身につけるため、さまざまな体験をすることですべてに精通した人材となれるよう努力したい」と決意を述べました。

江刈中学校の2年生が 被災地への募金活動！

江刈中学校（川村俊校長・生徒44人）の2年生15人の代表、野中優希さん、大道美紅さん、安東航希さんの3人は4月21日、町の社会福祉協議会を訪れ、藤岡範夫事務局長へ義援金（54,381円）を手渡しました。

この義援金は、2年生が4月19日から20日まで秋田県角館市で行った宿泊研修の中で、被災地への募金活動を同市内の中心部で行ったものです。野中さんは「最初は集まるか不安でしたが、温かい心を持った方々にたくさん募金をしていただきました」と笑顔で話しました。この義援金は日本赤十字社を通じて、被災地へ配分されます。



藤岡範夫事務局長へ義援金を手渡す野中優希さん

ことばの教室の入級式 元気に大きな声で返事

平成23年度のことばの教室入級式は、4月19日葛巻小学校で行われました。今年度は、町内の5つの小学校から合わせて14人の児童がこの教室で学ぶことになり、保護者や担任の先生とともに入級式に出席しました。

入級式では、この教室を担当する盛内俊彦先生が一人一人児童の名前を呼ぶと、みんな大きな声で元気よく「はい」と返事をしていました。その後、葛巻小学校の嶽間澤均校長は「14人のお友達と一緒に頑張ってください」とあいさつしました。ことばの教室ではこれから1年間、発音や話し方、舌の使い方、正しい読み方などを学びます。



一人一人名前を呼ばれ元気に返事をする児童ら



完成した水車小屋にっこりの山本さん。小屋の内部も本格的

山本さんミニチュアの 水車小屋本格的に製作

前里の山本幸太郎さん（61歳）は、このほどミニチュアの「水車小屋」（実物の10分の1の大きさ）を製作しました。「今度の秋の地区文化祭に、何か出そうと思って作り始めました」と山本さん。友人の大工の棟梁からアドバイスを受けながら、完成まで約半年かかりました。ヒノキを使い、屋根やはり、窓や引き戸、電灯なども取り付けました。水車はモーターで回り小屋の中できねや臼が動き出し、カタン・コトンと音がする本格的な作りの水車小屋です。

「全然大変じゃなかったよ。ただ細かい作業だったから目がよく見えなくて困ったよ」と笑顔の山本さんでした。



しっかりした態度で入学式に臨む新入生代表で宣言した大上愛莉さん

葛巻高校の新入生58人 決意を新たに高校生活

県立葛巻高等学校（高松博明校長・生徒165人）の入学式は4月15日、58名の新入生を迎え保護者や来賓、教職員が出席し同校体育館で行われました。

高松校長は「今日の喜びを忘れず、心身健康で有意義な高校生活を送ることを心から期待します」と式辞を述べました。また、新入生を代表し大上愛莉さん（江刈中卒）は「震災のことを考えると1ヵ月たった今でも胸が痛みます。私たちが将来を見通して今、何ができるかを考え、着実に進んでいけるよう決意を新たに高校生活を過ごしていくことを誓います」と宣言しました。

